

羽田地区町会連合会

会長就任のご挨拶

オーベルグランデイオ萩中自治会 竹下 勇 会長

地域への想い

今回「はばたき20」の発行にあたって原稿の依頼を頂き、頑なに断りして参りましたが、どうしても強い要請があり、筆を執らせて頂くことに僣越ながらお許し頂きますよう宜しくお願いいたします。また、昨今は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、三密回避・手洗い・マスクの着用等ご協力を賜り有難うございます。

さて、私はこの地「オーベルグランデイオ萩中(旧萩中住宅)」に昭和49年に居を構え、以来住み続けてきた地域への想いを述べさせていただきます。

この住宅は昭和43年勤労者の住宅として東京都住宅供給公社により長期分譲住宅として建てられた物件です。その後、公社による管理に会員が納得できず当住宅では長年に亘り自主管理を行いながら建て替えに向けた活動を行い、平成18年に現在のオーベルグランデイオ萩中として新しくなりました。

この期間の建て替えにあたっては様々な事がありました。建替え決議を得るまでに至ったのは会員同士の信頼関係の結束により、絆があったからだと思います。私もこの

事業に参画するにあたっては地域住民の皆さんとの相互理解が欠かせないと考え、積極的に地域の取り組みに参加し、当時の萩中神社青年会の立ち上げ、地元の神輿の新調にも微力ながら一員として信頼関係の構築に努めました。結果的に地元説明会でのご理解を得られたことは何事にも変えられない有難いことと、当時を振り返り、あらためて近隣町会の皆様に感謝を申し上げます。

建替え決議は一度不成立になったものの翌年の平成15年に成立し、平成16年から立替事業が実施されました。ここで私事ではありますが、長年勤めていた仕事も定年退職を迎え、これから先の住宅のコミュニケーションの形成について真剣に考えるようになり、現在の自治会の職を

微力ながら引き受け、現在に至っています。



ソラムナード羽田緑地に咲くスカシユリ(6月初旬撮影)



空港が一望できる羽田イノベーションシティの足湯(上写真:羽田みらい開発株式会社提供)

さて、羽田地区は本羽田・萩中・羽田地域から形成されています。しながら羽田地区は木造住宅が密集するまちで形成され、火災の危険性が高い地域となっています。こうしたまちの危険性を改善するため、平成23年に地域の町会長が中心となり「羽田の防災まちづくりの会」が発足しました。大田区と協働しながらまちづくりを進めています。災害に強いまちづくりに向け、消防活動に有効な車道の確保も重点項目に位置付け、取り組んでいるところです。

一方で空港跡地には、新しい羽田のまちとして、新産業創造・発信拠点「羽田イノベーションシティ」が開業し、令和2年9月18日には本格稼働しました。国内外のヒト、モノ、情報を集積させ、新たなビジネスやイノベーションの創造、ものづくり技術や日本の魅力等を世界に発信

する場所です。

その他、空港が一望できる無料の足湯や羽田の歴史を展示するコーナー等も設けられています。写真にも掲載しましたが平成31年4月に羽田空港跡地第二ゾーン内多摩川沿いに「ソラムナード羽田緑地」が開園いたしました。園内には、展望テラスや休憩施設が配置され、四季を感じさせることのできる植栽のある「散策路」が整備されています。また、およそ5千株のスカシユリが植えられており、5月下旬から6月上旬には見頃を迎え、一面オレンジ色に咲き誇ります。ぜひご観覧いただきますようお願いします。

最後になりますが、地域の皆様のご協力とご鞭撻を賜り、更なる地域力向上に取り組みで参りますので、引き続き宜しくお願い致します。(羽田地区町会連合会会長 竹下 勇)



※今号発行に際しては、公益財団法人伊東奨学会の寄付金が活用されています。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

夢と希望と……

わがまちの技 輝くノーベル賞

株式会社京浜理化工業

昭和52年5月、第一次オイルショック後の不況の中、32歳の私はこれ以上の不況はないと考え、自分の会社を持ちたいとの思いが強く、妻を説得して脱サラしました。当時3歳の息子と1歳の娘と女房を連れ横浜から異動し、京浜工業地帯の大田区本羽田一丁目

に佐瀬製作所(後の京浜理化工業)という工場を設立致しました。当時、京浜工業地帯は工場が沢山あり、この土地で成功すれば日本中どこでも大丈夫と言われる程でした。しかし、全財産720万円を使って機械を購入し、借り住まい、借り工場でのスタート、設立した時期は苦労の連続でした。

サラリーマン時代の仲間と私の2人、明日も生き残れるか分からない苦難の状況が2年半続きました。

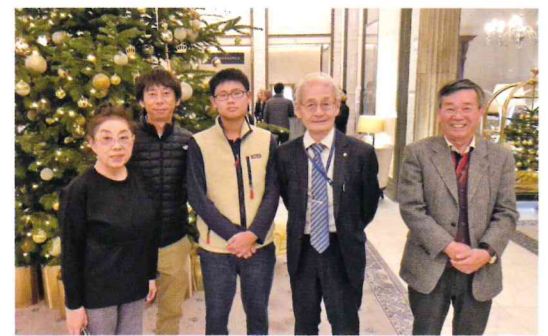
設立3年目に医療機関で検査機として使用されています、MRICIT(磁気共鳴コンピュータ診断装置)の開発に携わる事ができ、つくば科学博の政府テーマ館に出展する事で国から表彰を受けるなど、転機が訪れました。

これをきっかけに様々な開発のテーマに恵まれ、会社は軌道に乗り、大手企業と仕事を増やせる機会も増えました。従業員も7人増え、独自の技術

を極め、特許を取得し、小さな工場ながら自社製品の実験機などをメーカーとしております。また、営業部は設けずに商社のプロが世界に販売エリアを広げて工場から発信しています。その一方で大手会社の開発のお手伝いもさせて頂いています。

令和元年、ノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏とは仕事上で古くからの戦友でもあり、リチウムイオン電池の初期から実験開発を一緒に歩んできた事はとても「ほこり」に思っています。一家庭に一つは必ずこの電池が使用されています。携帯電話、パソコン、ゲーム機、ドローン、宇宙に海底検査機等々です。

リチウムイオン電池の開発研究に成功した事、当社が数人の小さな町工場でありながら携わられた事は、社員の技術と知恵が



ノーベル賞授賞式での1枚

あつてこそ！と胸を張り感謝の念に堪えません。現在旭化成名誉フェローでもあります吉野彰氏より、スウェーデンのストックホルムにて催されるノーベル賞授賞式に招待され、息子と孫と女房の4人で夢のような1週間を過ごさせて頂きました。

ノーベル博物館に電池の初期から現在のレプリカが展示される事になり、弊社で制作した製品が展示されています。

このような成長を遂げられたのは、私の愛読書である「八甲田山死の彷徨」に「時には目上の人でも自分の主張を曲げない」という教訓を守ってきたからです。その教訓を仕事や趣味など様々な場面で意識して現在まで生きています。

現在は、9人の少数精鋭でやっております。流石に売り上げは言えませんが年々上昇しています。そして今、夢や希望を抱いて働いている若い人たちに伝えたい言葉、会社の上司から理不尽な事を言われることもあるでしょう。上司の言っている事が間違っていると思ったら思い切って自分の意見を言ってみましょう。勇気を持って自分の意思を相手に伝えることが夢や希望を叶える一歩です。

※ノーベル博物館同様レプリカが上野の国立科学博物館に展示されています。(株式会社京浜理化工業 佐瀬都司)

□ふれあいとうるおいのあるまち

地域情報紙 Vol.29 新春号 No.111

はばたき

□発行 地域力推進羽田地区委員会

□編集 はばたき20編集委員会